



# さわやか通信

第6巻3号 平成21年6月30日



## 「ビルトゥオーソをめざして」

先日久しぶりにステージに立つ機会がありました。ピアノは幼稚園の年中からはじめ、高校2年まで続け、ショパンの「スケルツォ第2番 変ロ短調」を弾いて以来ステージから遠ざかっていました。

今回は子供たちの発表会の最後に自分たちでアレンジしたクリスマスの曲を2曲、内科の医師のエレクトーンと私のピアノで演奏しました。腕が腱鞘炎になるくらい練習し、両肘に新発売の「ロキソニンテープ」を張って本番にのぞみました。結果は我々の「圧勝!？」でした。

これをきっかけに私の中でメラメラと燃えるものが次第に大きくなり、次回の「浜松国際ピアノコンクール」出場!!という、ありえない目標に向かって難曲「**アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ**」を練習しているところです。ところで「ビルトゥオーソ」とは「卓越した技術を持つ名手」という意味のイタリア語です。過去の有名なピアニストでいえば、ウラジーミル・ホロヴィッツがその代表といえるでしょう。

整形外科の診察器具に「打鍵器；ハン

マー」がありますが、ピアノも鍵盤の動きを「打鍵器；ハンマー」で弦を叩くことで音を奏でることができます。ピアノと整形外科手術にはこのような共通点があり、さらに、人工股関節をハンマーで叩き込むときは「フォルテッシモ」かつ「アパシヨナート；情熱をもって」で叩き込む、骨盤骨切りのときはノミを「アレグレット」の速さで最後は「クレッシェンド；次第に強く」でハンマーを叩く、骨接合時には「レガート；切れ目なく」に接合する、といった感覚での共通点もあります。整形外科手術とピアノの「ビルトゥオーソ」という「2足のわらじ」を手に入れることはそう難題ではないと考えています。

(整形外科 星野裕信)



写真：クリエート浜松にて



## ～ビジュアル臨床検査～

201X年0月X日、会社員鈴木太郎は先日受けた人間ドックの結果を聞きにA総合病院にやって来た。

鈴木「先生、結果はどうでしたか？」

医師はパソコンの画面を鈴木に見せながら説明を始めた。

医師「これが体全体の絵ですね。ここの赤くなってるところが肝臓です。少し悪いようですね。」

画面には、全身のシェーマが映し出され、肺・心臓・肝臓・胆嚢・膵臓・腎臓などが表示されている。その中で肝臓の部分がやや赤みを帯びていた。それ以外の部分は青色になっている。

医師「もう少し詳しく見てみましょうね。」

と、言って、画面の肝臓をクリックした。すると肝臓関連検査項目の結果が時系列でポップアップ表示された。他の臓器もクリックすると同様に表示される。

医師「ASTが50、ALTが70、γ-GTが180と前より悪くなってますね。お酒の量は減りましたか？」

鈴木「ええ、控えてはいるのですが..(笑)。ほかは大丈夫でしょうか？」

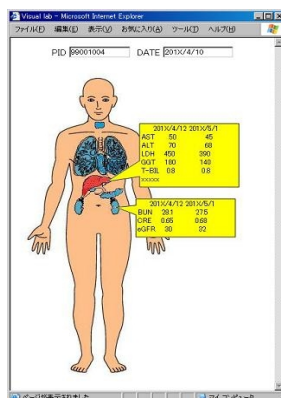
医師「ほかの部分は青ですから大丈夫ですよ。悪くなる」と信号のように黄色から赤色へと変るんですよ。解りましたか？」

鈴木「あっ、そうですか、よく理解できました。どうも有り難うございました。」

臨床検査の結果は、数値表示のため患者さんには理解できない面が多々ある。**人間は元来、数値よりも画像などのイメージの方が記憶に残るものである。**

この様に検査結果をビジュアルな形で見せるのは決して未来の話ではない、現在の技術でも十分に可能なのである。

(検査部 近藤光)



## 「晴耕雨読」

東京には空がないと嘆いた歌人がいたが、新棟の手術室の窓は小さい。現在の手術室は外周廊下があるので窓は大きく明るい。常時手術室にいる者には外の景色を眺めるのはストレス解消法の一つである。そこで新棟でも上層階に手術室を配置し外周廊下を作る、それがだめならせめて柱を少なくして窓を大きく、という提案をしたがことごとく却下された。

閉塞感のある手術室には（部屋自体は現在より格段に広いのだが）あまり居たくはないだろうと今から憂鬱である。そうしたこともあって、あるいは生来の気質からか屋外で身体を動かすことが好きでストレス解消になる。今までも普通にスポーツは、瞬発力はないけれど体力はあるのでいろいろやっではいる。夏はテニス、ゴルフ、冬はスノーボード（雪国出身なので）と結構幅広い趣味もある。そんな中でも現在はまっているのが**畑仕事（農作業）**である。大学に平成15年に戻ってから、外科のS先生や技術部のUさんと週末不定期に作物を育てている。最近、新たに定年退職された事務のSさんも加わった。大学の刊行物を見ても結構、同好の士はいるようである。無農薬で自分が食べる物を作るというのが原則である。食の安全とか大げさな話ではないが、虫も食べられないような野菜では人間が食べても毒だろうとは思ふ。

**作物を育てて感じるのは、旬というか季節感が実感できる。**梅雨になれば、日照不足による生育の遅れ、晴天が続けば水不足と世話は大変である。中でも雑草との戦いはまさに果てることのないそして勝ち目のない戦いである。冬ですらしっかり雑草は生えるのである。ましてや週末だけのパートタイム農業ではお手上げである。

BBQと引き換えに学生を動員し、押し掛けボランティアの患者さんなども手伝いをしてくれる。元事務のSさんは真面目なので最近是非常にきれいな畑になった。これから夏野菜の茄子、トマト、きゅうり、ゴーヤ（結構簡単に作れる）が毎日採れ出す。食べきれないのでお裾分けをすると見かけは不細工でも好評である。何といっても新鮮、採れたて無農薬だから。空豆やんにくがひと冬越して6か月以上栽培に時間が掛ることや下仁田葱も植えかえて2年以上太くすることなど作って初めて知った。

農作業で汗をかいた後、仲間と飲むビールは最高に美味しいこと。そしてつまみに採れたてのきゅうりを塩、あるいは味噌があれば最高。また空豆は皮ごと焼くと蒸し焼きになってうまみが逃げないので美味しい。また商品作物ではないし、子育てと異なり失敗しても誰に迷惑がかかるとは思わなくて気楽なものである。玉葱、ジャガイモ、白菜、キャベツ等々を田舎の母に送ると大変意外だったらしく驚かれた。**自給自足とはなり得ないが本当に贅沢な趣味である。**

一方、雨の日の読書は肩の凝らないミステリーや時代小説でアカデミックな本は読まない。文庫本は手軽であるが、最近は電子媒体で文字を大きくして欲しいと思うところが悲しい。**手術室の外に広がる屋上に畑を作ったら、冷暖房費は抑えられ患者さんの作業療法になり、緑が目にも優しく二酸化炭素を同化して地球温暖化対策の一助になると夢想するのは私だけではないだろう。**現在の最大の悩みは頸椎椎間板ヘルニアを患い、手がしびれて作業が覚束ないことである。至急求む、農作業員！！（手術部長 白石義人）

## 《がん化学療法看護認定看護師 誕生！》



私は、**「がん化学療法看護認定看護師」**の天羽 光江（あもう みつえ）と申します。昨年4月から6ヶ月間、愛知県立看護大学看護実践センター がん化学療法看護認定看護師教育課程で学び、今年6月に日本看護協会の認定審査に合格、認定看護師としての資格を取得いたしました。

私が、がん化学療法認定看護師を志したきっかけは、多くのがん患者が化学療法を実施しているのにもかかわらず、患者の身近にいる看護師として、**患者独自の問題に対して上手く介入ができず、不甲斐ない思いをしたからです。**また、現在のがん化学療法は、多くの薬品が開発され、どうしても避けられない副作用に患者が辛い思いをする場面が多く、それらを早期に理解し、専門的な知識を活かし患者とともに良い方法を考えながら対処できるようになりたいと考えたからです。

当院のがん化学療法は、様々な科で多岐にわたっていることから、多くのものに対応することが困難な状況であると考えます。まずは、当院の現状を知り、抗がん剤の安全な取り扱いや投薬中の注意などの基本的な問題を解決しながら、緩和ケアチームの一員として、外来化学療法センターと連携を図りながら、日々の患者への看護介入ができれば良いと思っています。

認定看護師として至らぬことが多いですが、対応できる範囲で活動していきますのでこれからよろしくお願ひ致します。（西8階病棟所属 天羽光江）

## 『ご意見箱の声』

患者ご意見箱に次の内容が投函されました。**『ごみを落とさない、落としたら拾う、目についたら拾う、ということを経営のモットーで我が社にはごみが落ちていません。そういう意味で気がついたのですが、落ちていないごみを誰も拾っていないのが不思議でした。清掃の人に任せるのではなく、自分達の働く職場を自分達できれいにするという意味で先生であれ、看護師であれ全員で取り組むべきだと思いました。』**

職員の皆さん、このご意見をどのように受け止めますか、昨今、企業や医療安全体制の《品質管理》で5S運動「整理」「整頓」「清掃」「清潔」「しつけ」が注目されています。行動しましょう！（サービス担当 桑原弓枝）